



# HYPERDRIVE DESIGN

**⚠ このリールは淡水専用です。**

このリールは主に淡水でのフィッシング用に開発されたリールであり、その性能を最大限生かすために、一部海水での使用に向かない素材、部品を使用しております。海水でのご使用はおやめください。

## SilverCreek AIR TW STREAM CUSTOM

### 取扱説明書

#### ●安全上の注意

**注意**

- ①糸をリードするレベルウィンドの所に指を近づけて釣りをしないでください。怪我をする恐れがあります。
- ②糸が勢いよく出ている時は、糸に触れないでください。糸で指を切る恐れがあります。
- ③幼児の手の届く所には置かないでください。予期せぬ事故や怪我につながる恐れがあります。
- ④超薄肉スプールの為、濡れた手でスプールエッジを触る時などは、指を切らないようにご注意ください。
- ⑤キャストの時にはクラッチを切るのを忘れないでください。仕掛けが出て行かず、怪我をする恐れがあります。
- ⑥ハンドルとボディの間に指をはさまないように注意してください。指をはさまれて怪我をする恐れがあります。
- ⑦糸が勢いよく出ている時は、スプールの上に指を置かないようにご注意ください。ヤケドや、指をはさんで怪我の原因になる恐れがあります。

#### ●安全上・ご使用上の注意

**注意**

- ①根掛かりした時は、無理に竿をあおらず糸を手にとって切るようにしてください。竿をあおると、竿折れの原因になります。(その際は、手袋やタオルで手を保護してください。)
- ②リールのワンウェイクラッチ部に注油しないでください。ハンドルが逆転し、手にあたり怪我をする恐れがあります。
- ③ドラッグを長時間連続使用すると、ドラッグ収納部が熱くなり、ヤケドをする恐れがあります。
- ④ドラッグ付きリールで遠投する際には、ドラッグが滑ると糸で指を傷つける恐れがあります。必ずドラッグをよく締め付けてから投げてください。
- ⑤リールを長時間収納するときは、水分を完全に切り、なるべく通気性のよい場所に保管してください。
- ⑥ドラッグ付きリールは、釣行後にドラッグを緩めて保管してください。ドラッグをキツく締めたまま保管すると、ドラッグワッシャーが濡れ、ドラッグ性能が低下する事があります。
- ⑦本製品は十分な強度基準で設計・製造されていますが、実釣時に想定以上の極端な負荷がかかるケースでは破損する恐れがあります。
- ⑧使用糸の径の大小、糸巻き時の張力の変化、作動クリアランスなどにより、表示巻き糸量、糸巻き状態に差異が生じることがあります。

- ⑨落下などの強いショックがかかると、破損する場合がありますので、お取り扱いにはご注意ください。
- ⑩リールの回転部にはグリスや油が付いていますので、服を汚さないようにご注意ください。
- ⑪クラッチを押し込んだまま、ハンドルを回さないでください。(ラインがロックした状態等で、クラッチを押し込んだままハンドルを回すと、クラッチ及びストッパー、ギア等の破損につながります。)
- ⑫ルアーやワームをリールに引っ掛けるのはお止めください。リールを傷つけたり、塗装がはがれたりすることがあります。
- ⑬シンナー、ベンジン、アルコール、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類などの有機溶剤は、本機の表面が変質したり塗装がはがれたりすることがあるので、ご使用にならないでください。また、上記が手についたまま本機を扱うこともお止めください。
- ⑭弊社純正部品以外の取り付けによる不具合は保証できません。また、弊社純正部品以外の部品が取り付けられたままでの修理は場合によってはお断りさせていただきます。
- ⑮本製品は釣具として開発されていますので、釣り以外の用途で使わないでください。
- ⑯製品改良のため、仕様およびデザインの一部を予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

#### ●各部の名称と操作方法 (※図は右ハンドルモデルです。)

この度は SILVER CREEK AIR TW STREAM CUSTOM ベイトキャストイングリールをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。本製品は、渓流域で求められるキャスト精度や小型ルアーを快適に扱えるセッティングを施した渓流ベイトフィネス専用機です。通常の社内規格を超えたチューニングが施されており、ご使用上の制約条件が多くなっております。あらかじめご了承ください。このリールを正しくご使用頂くために、ご使用になる前にこの説明書をよくお読みください。また、リール同様この説明書も大切に保管していただきますよう、お願い申し上げます。

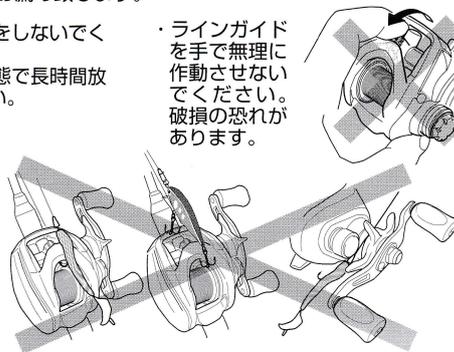
#### ●取扱い・保管上の注意

- ・保管の際は必ず竿から取り外してください。
- ・リールを長時間(数ヶ月以上)お使いにならない時は、リール作動部を時々動かす事をお薦め致します。

- ・水の中に長時間放置をしないでください。
- ・釣り餌が付着した状態で長時間放置をしないでください。

- ・ラインガイドを手で無理に作動させないでください。破損の恐れがあります。

- ・ルアーやワームをリールに引っ掛けるのはお止めください。リールを傷つけたり、ラインが傷ついたり、ワームの成分によってリールの塗装が侵されることがあります。



- ・Tシェイプレベルウィンドの狭い部分からラインが外れると、スプールにラインをきれいに巻くことができません。

- ※スプールに糸を巻く時、バックラッシュをほどこく時は、必ずラインが狭い部分を通るようにして行ってください。

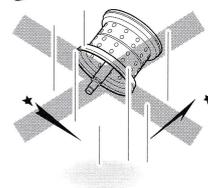


- ・Tシェイプレベルウィンドの狭い部分にリーダー結節部が挟まった場合は、指で外してください。

- ・リーダー結節部がレベルウィンドを通過しにくい場合があります。結節部はロッドのガイドより外側に出すことをおすすめ致します。



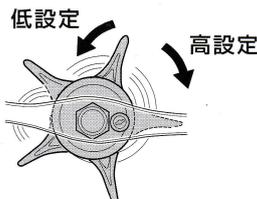
- ※そのままクラッチを切るなど、破損の恐れがあります。
- ・超薄肉スプールの為、落下などのショックで変形してしまうと、スプール性能が発揮されなくなります。お取扱いは十分ご注意ください。



- ・根掛かりした時に、スプールを指で押さえてラインを切る事はおやめください。スプール変形の原因になります。必ず手でラインを持って根掛かりを外すようにしてください。

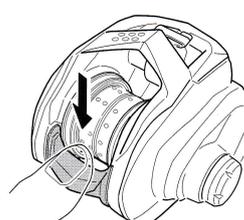
#### ●ドラッグ調整方法 (※図は右ハンドルモデルです。)

- ・右ハンドルモデルの場合、時計回りに回せばドラッグ設定は高くなり、反時計回りに回せばドラッグ設定は低くなります。(左ハンドルモデルは逆になります) 使用ライン、釣種に合わせて調整を行ってください。



#### ●ハイパータフクラッチ

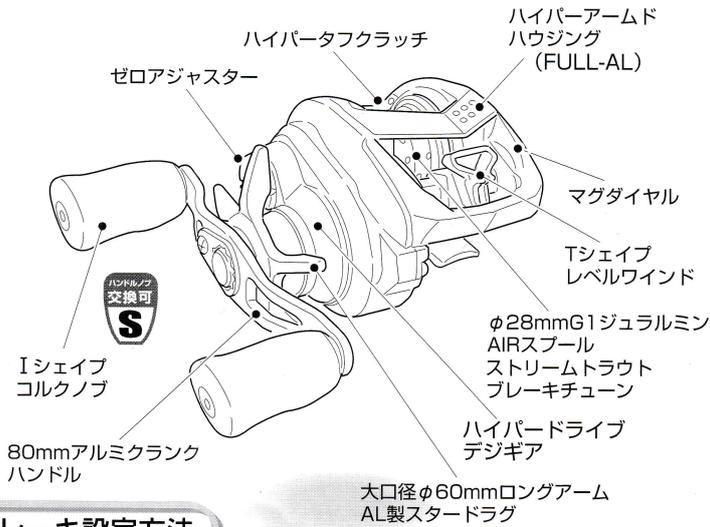
- ・親指で軽く下に押すだけで、クラッチが切れ、スプールはフリーの状態になります。親指でクラッチとスプールを同時に押さえることができるので、すばやくキャストできます。



**注意**

**●ラインに関するご注意**

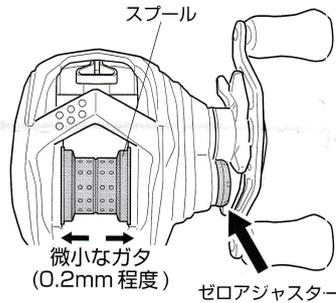
超薄肉スプールを採用しているため、必要以上の高いラインテンションで巻くと、スプールが変形する場合がございます。ラインテンションを掛けすぎないようにご注意ください。推奨するラインテンションは300g以下です。  
※詳細は、別紙の製品特性上の注意の「△ラインに関するご注意」を参照ください。



**●ブレーキ設定方法**

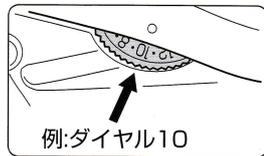
はじめに“ゼロアジャスター”を調整し、“スプールガタ ゼロ”設定を実施してください。

- ・“ゼロアジャスター”は、釣りを開始する前に“ゼロ設定”に調整することで、釣りの間に誤作動が起こることなく、快適に釣りを楽しんで頂くための機構です。
- ・“スプールガタ ゼロ”設定とは、スプールを押さないギリギリの設定のことで、微小なガタつき(0.2mm程度)を残した状態のことで、本リールは、出荷段階でスプールポジションを“ゼロ設定”にセットして出荷させていただいております。
- ※クラッチを切った状態でスプールを挟み上下に2つの指でしっかり掴むと、ガタつきの状態が把握しやすくなります。
- ・“ゼロアジャスター”は、時計回りで締め、反時計回りで緩めます。



●マグネットブレーキの進化により全てのルアーをマグダイヤルのみで制御することが可能です。

- ・“スプールガタ ゼロ”の設定で、マグダイヤルの目盛りに委ねてください。
- ・数値が大きいとブレーキ力は強くなり、数値が小さいとブレーキ力も弱くなります。
- ・慣れるまでは



- ①マグダイヤルの目盛りを最大にしてお使いください。
- ②慣れるに従って、徐々にマグダイヤルを下げに行きます。バックラッシュ気味になる一つ手前の目盛りが、その時の条件に合った最適なセッティングです。
- ③半分以下(目盛り10)の数値のゾーンまで下げていく場合は、必ずひと目盛りずつ下げます。※マグダイヤルの数値が小さいと、ブレーキ力はかなり微弱です。いきなり下げすぎるとバックラッシュが発生しますので充分ご注意ください。
- ※もちろん、サミングを併用することで更にブレーキを落とす(より小さい目盛りで使う)ことが可能です。
- ※マグダイヤル目盛りが最大でもブレーキ力が弱く感じた時に、ゼロアジャスターを少し締めてお使いいただくと、補助ブレーキの役割を果たします。

**注意**

- ・ゼロアジャスターを“ゼロ”より締めて使うと、本リールが有している“高レスポンスなスプール性能”を損ね、飛距離ダウンや、フィネス性能の低下が発生します。また、更に締め込みすぎた状態で使い続けると、中のシャフトが焼きつきを起こし、「キーン」という異音が発生するケースがあります。
- ・一方で、ミクロン単位の精度を追求した超高精度スプールの為、“スプールガタ ゼロ”状態より大きく緩んだ状態で使用すると、キャスト時のスプールの振れが大きくなる為に、リール本来のマグネットブレーキの性能が不安定になり、ノイズの発生のみならず、飛距離ダウンやバックラッシュ発生の原因となります。更に緩めすぎた状態では、スプールとフレームが干渉し、傷を発生させてしまいます。
- ・本リールの持つ性能をフルに発揮させる為にも“スプールガタ ゼロ”設定でご使用いただくことを強くお勧め致します。緩めすぎや締め過ぎはお勧めできません。

本リールは、PEラインを、よりトラブルレスにキャストする事ができるように開発されておりますが、**PEラインの特性上、全くトラブルが無くなる訳ではありません。**使いこなされるには、「慣れ」という部分が不可欠です。あらかじめご了承ください。

- ①最初からフルキャストをせずに、徐々に距離を伸ばして行くように心掛ける。
  - ・その日の釣り始めの状態では、スプールに巻かれたPEライン同士がくっついていたり、下のラインに上のラインが食い込んでいたりする場合があります。
  - ・その状態でいきなりフルキャストすると、ライン放出の妨げになり、最悪の場合はラインが高切れて、ルアーをロストする事もあります。
  - ・ラインが食い込んだり、くっついた状態をほぐし、スプールによくラインが馴染んだ状態になったら、徐々にキャスト時の入力を強くしていただく事をお薦めします。
- ②ロッドの弾力を利用して、“乗せる”キャストを心掛ける。
  - ・“コンパクトなスイングでピュッと振り切る”ようなキャストはトラブルの元です。スイングの初速～中盤～終盤までのスピード差を極力少なくする意識でキャストしてください。
- ③ジャークや、シャクリ等で、ラインがフケ気味に巻かれる場合は、テンションを掛け直す。
  - ・糸フケが多く出ている状態で使い続けると、上のラインが下のラインに食い込みやすくなります。ラインが食い込むと、次のキャスト時のトラブルに繋がります。
- ④キャストングの中で、ゼロアジャスターを緩めすぎない。
  - ・緩めすぎると、トラブルが増えます。緩め過ぎは逆効果です。
  - ※ゼロアジャスターの設定については、「プレーキ設定方法」の欄を参照ください。
- ⑤リーダーとの結節部が、ロッドのガイドから外側に出るようにする。
  - ・リーダーが長いと、キャスト時に結節部がガイドに絡み、高切れの原因となります。
  - ・リーダーを長く取らざるを得ない場合は、ノット部を極力小さくすることをお薦め致します。

**Q. 向かい風の時には？**

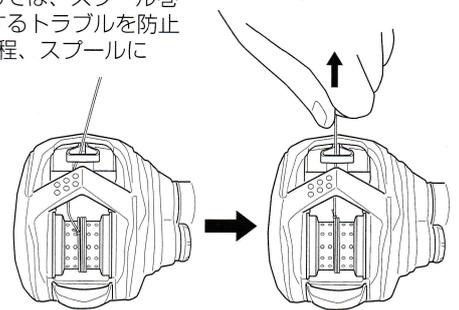
**A.** マグダイヤル目盛りを上げて、余分なラインが出ない様にすることで、トラブルを減らすことができます。それでも、バックラッシュをしてしまう時に、はじめてゼロアジャスターを締めていきます。

**Q. ナイロンやフロロカーボンラインは使えないの？**

**A.** 使用できます。ナイロンラインやフロロカーボンラインも使用できるブレーキセッティングになっています。ただし、PEラインより比重の大きいフロロカーボンラインをご使用の場合は、マグダイヤル目盛りを下げ過ぎるとバックラッシュが発生しやすくなりますので、PEラインのご使用時よりもマグダイヤル目盛りを上げてご使用ください。

**●スプールにPEラインを巻きはじめの時の結び方**

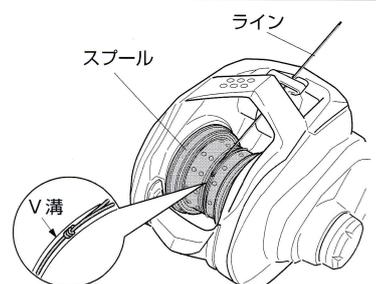
- ・PEライン使用に際しては、スプール巻糸面でラインが空転するトラブルを防止する為、3回から5回程、スプールに巻きつけた後、しっかりと結び付けてください。
- また、結び付けた後、強く引っ張ってもスプールから空転しないことを確認した後、巻糸を開始してください。



**●スプールへのラインの結び方**

(※図は右ハンドルモデルです。)

- ・右図のようにスプールセンターのV溝に結びコブを入れます。(結び目は完全には納まりません。)
- ・スプールレスポンスを発揮するためには、必要最小限のラインを巻いての使用をお薦め致します。
- ※テープで固定するのはお止めください。テープで固定するとスプールの回転バランスが崩れ、「ブーン」、「キーン」といった異音が発生します。



●キャスト時の注意 (※図は右ハンドルモデルです。)

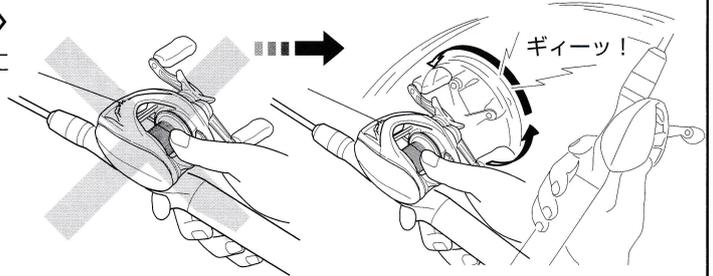
〈正しい握り方〉

ハンドルを上向き(もしくは下向き)にして握ります。



〈誤った握り方〉

ハンドルを横向きにしまうと・・・



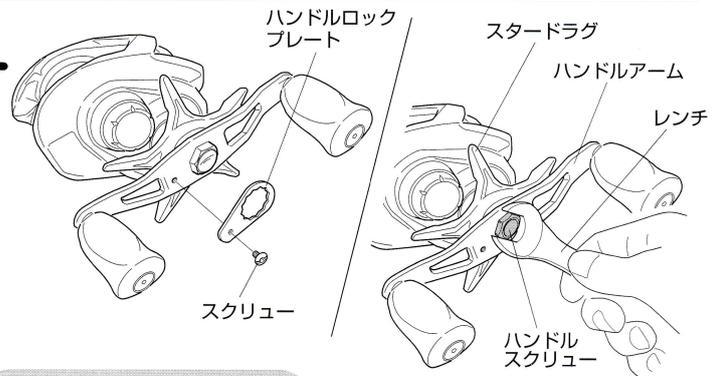
※キャストの衝撃でハンドルが回転し、クラッチが返ってしまいます。車でいえば、クラッチを切らずにギアをつなぐ様なもの。最悪ギアの破損の恐れもあります。絶対にお避けください。  
 ※また、キャスト中にクラッチを戻さないでください。ルアーが着水してから戻さないと、ギアやボールベアリング等の破損につながる恐れがあります。  
 ※標準装備のハンドルより長いハンドルや、重い(大きい)ハンドルノブを取り付けると、キャスト時のクラッチ返りが起こりやすくなりますのでご注意ください。

●ハンドル交換方法 (※図は右ハンドルモデルです。)

(※図は右ハンドルモデルです。)

- 市販のドライバー(※)でスクリューを緩め(反時計回り)、ハンドルロックプレートを外します。
- ドラッグを締め込み、市販のレンチ(※)を使い、反時計回りでハンドルスクリューを外します。  
(※)ダイワRCSベイトキャストイングリール純正オプションハンドルには、ドライバーとレンチを兼ねた取外し用の工具が入っております。
- ハンドルを外し、交換してください。
- レンチを使い、ハンドルスクリューを取付けます。強めに時計回りに締めてください。
- ハンドルロックプレートを取付け、ドライバーでスクリューを締めて(時計回り)ください。

※ハンドルスクリューはハンドルロックプレートの溝に合うように締めてください。



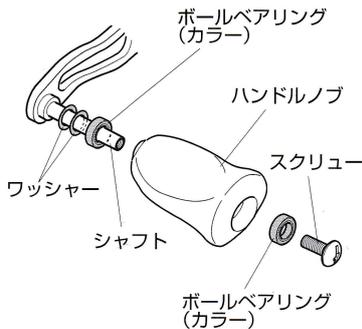
●スプールの交換方法 (※図は右ハンドルモデルです。)

- サイドプレート下のストッパーレバーをスライドし、サイドプレートを外します。
- スプールのシャフトを持ち、静かに引抜いてください。  
 ※スプールを落とさないようご注意ください。

●ハンドルノブ取付方法

※Sサイズノブと互換性があります。

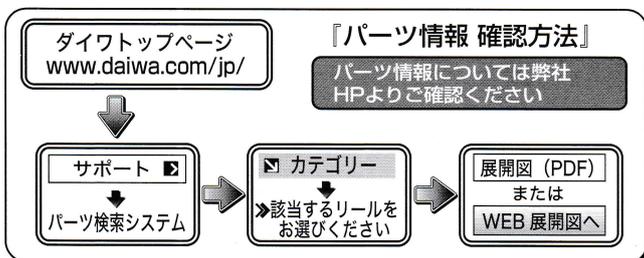
図のように、シャフトにワッシャー、ボールベアリング(カラー)を入れ、ノブを挿入し、残りのボールベアリング(カラー)を入れます。スクリューを市販のプラスドライバーを使ってしっかりと締め込みます。2つ目のボールベアリング(カラー)がノブに納まるよう、しっかりと入れてください。



※ハンドルノブのガタが大きい場合は、ダイワ純正RCSオプションハンドルノブに付属しているワッシャーを図Aの位置に追加してください。(追加する場合、ワッシャーを入れすぎるとハンドルノブが回転しなくなるのでご注意ください。)



●展開図&部品表



●アフターサービスについて

本製品は当社の厳重な検査を経て出荷されたものですが、万一、故障が生じ修理が必要な場合、あるいは部品御注文の際はご購入の求むの販売店、または下記のお客様センターまでお問い合わせください。なお、修理品は部品代のほか手数料をいただきますのでご了承ください。

お客様センター(無料) 携帯電話からご利用できます  
 TEL 0120-506-204 【受付時間】9:00~17:00 (土・日・祝祭日は除く)

ホームページ上からも確認、お問い合わせできます

[www.daiwa.com/jp/](http://www.daiwa.com/jp/)  
**グローブライド株式会社**

〒203-8511 東京都東久留米市前沢3-14-16

## ●重要！お手入れ方法

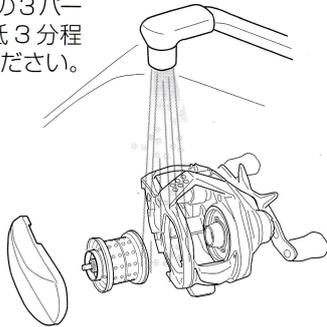
- 本製品は、精密部品で構成されています。下記の注意事項を守ってお取り扱いください。
- 錆等の固着によるトラブルを防止する為にも、以下の要領で、釣行後必ずメンテナンスを行っていただくことが重要です。但し、ボールベアリングやギア等は消耗品であり、長期間のご使用により、初期性能は低下する可能性があります。
- 本製品を末永くお使い頂くためにも、年に1度は(株)スポーツライフプラネットへオーバーホールに出すことをお勧めします。(有料)

- 推奨オイル：スーパーフィネスルーブ
  - 推奨グリス：ダイワ純正リールガードグリス
- ※市販の防錆潤滑剤等のご使用は結果的にボールベアリング・グリス等の耐久性を損なう恐れがありますので、**絶対におやめください。**

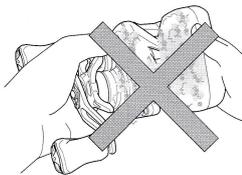
### <順序>

①使用後は、なるべく早く水洗いしてください。摺動部や回転部に残った汚れを洗い流すためです。

- ・ドラッグを締め込んでからサイドプレートを外し、サイドプレート、スプール、本体の3パーツに分け、シャワー等の真水で最低3分程度かけて、各パーツを水洗いしてください。
- ・サイドプレート、スプール、本体いずれも、様々な角度から水を掛け流してください。
- ・クラッチは、オン⇄オフを繰り返しながらよく水を掛け流してください。ハンドルやハンドルノブも回しながら水を掛け流してください。



※温水による洗浄やリールを水没させての洗浄、洗剤等での洗浄は絶対におやめください。適材適所で使い分けられているオイルやグリスを流出させてしまいます。結果的にボールベアリング、ギアなど重要回転部品の耐久性を損ないますので絶対にお止めください。



・本体のウォームシャフトやレベルwind、ダイヤルが汚れている場合は、綿棒などで汚れを取り除いてください。

②洗浄後は、3パーツを組立て、よく水を切って乾燥させてください。

・よく水を切るために、**ハンドルやクラッチ、スプール等の作動部を動かしながら行うと効果的です。**

・**ドラッグを緩め、水抜き穴を下にして陰干ししてください。**また、直射日光を避けてなるべく通風性の良い場所で乾燥させてください。

※濡れたまま湿度の高い状態で密封された空間(自動車のトランク、ダッシュボード等)に長時間放置されますと腐食を起こす可能性があります。

・内部の水分が完全に乾燥するまでは5日ほどかかります。**乾燥中は、出来れば1日1回程度、ハンドルやクラッチ、スプールなど作動部を動かしてください。**

※溶剤(シンナーなど)では手入れしないでください。

③以下の注油規定に則り、必ず注油してください。

④保管の際は、ドラッグを緩めてください。

## ■注油規定 — ⚠️ ※注油規定以外の注油をされるとリール本体に不具合が発生することがあります。

### 【スプール部ボールベアリングへの注油(オイル)】

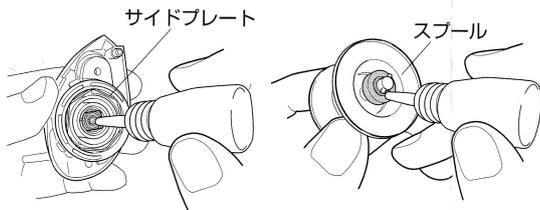
※毎釣行ごとに、スプールボールベアリングへ注油を行ってください。

1 サイドプレートを取り外し、裏側の中心にあるボールベアリングへ注油します。

2 スプールを取り外し、シャフトに付属しているボールベアリングにも注油します。

※つけすぎは逆にボールベアリングの本来の回転性能を損なう恐れがあります。

例えばボールベアリング用オイルの場合、容器を押して、オイルが表面張力でノズルから盛り上がる程度の分量が適正です。スプレーオイルの場合は一瞬吹き付ける程度で結構です。



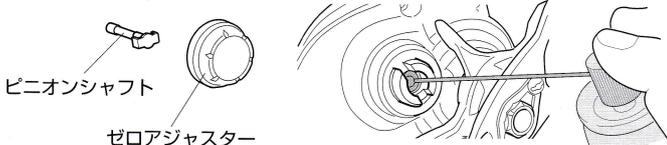
### 【ピニオンギアへの注油(グリス)】

1 ゼロアジャスターを外し、中のピニオンシャフトをはずした上で、クラッチをOFFにしてピニオン外側面に注油します。

(極少量、スプレーグリスの場合一瞬吹き付ける程度です。)

### 【ピニオンギア部ボールベアリングへの注油(グリス)】

1 ゼロアジャスターを外し、中のピニオンシャフト(黒色のシャフト)をはずした上で、内側に見えるボールベアリングに注油します。又、スプールを取り外し、反対側のボールベアリングにも同様に注油します。この際クラッチをOFFにしているとうまく行えます。(共に極少量、スプレーグリスの場合一瞬吹き付ける程度です。)

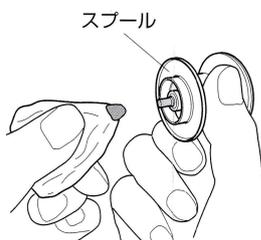


2 ゼロアジャスターの作動が渋くなったら、内側のOリング部に極少量グリスを注油してください。

### 【スプールシャフトへの注油(グリス)】

1 取り外したスプールのシャフト両端に、グリスを付けます。イラストの様に、一度、ビニールなどにグリスを吹き付けておくとうまくいきます。

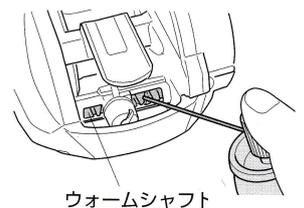
※グリス切れの状態では長時間使うと、上記ピニオンシャフトとの摩擦で焼きつきをおこす事があります。少量を毎回注油される事をお勧め致します。



### 【ウォームシャフト部への注油(グリス)】

1 図の様にウォームシャフト部へ注油します。

※長時間ご使用になり、汚れが激しい場合は、一度オイルを吹き付け汚れを浮かしてから綿棒などで拭き取り、その後、グリスを注油してください。

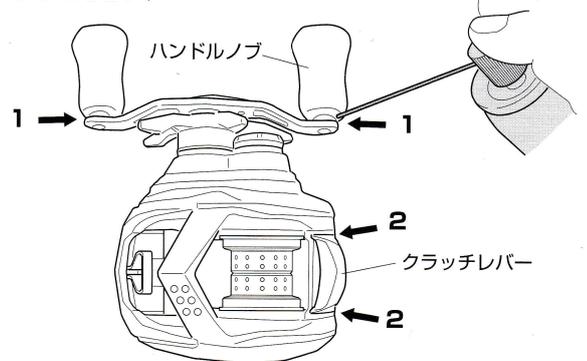


### 【ハンドルノブ、クラッチ、ラインガイド部への注油(グリス)】

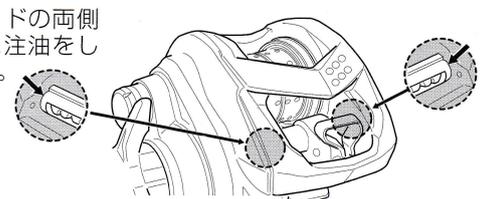
1 図の様にハンドルノブへ注油します。

※グリス・オイルの付けすぎは逆に本来の性能を損なう可能性があります。ご注意ください。

2 図の様にクラッチレバーと本体との摩擦部にも注油してください。



3 ラインガイドの両側の回転部に注油をしてください。



※水抜き穴への注油は絶対におやめください。

※ギア部等リールを分解してのお手入れは、内部構造が複雑なため、おやめください。